コーヒーブレイク

ふとんの「打ち直し」

島田 徹

街中を散歩していたら、おじさんが布団から「わた」をとりだして、そのわたを棒でたたいている風景に出会いました。これまで、子どもの時から何気なく布団の「打ち直し」という言葉を使っていましたし、打ち終わった後の布団の‘ふわふわ’さは、忘れられません。また、西神ニュータウンに来てからも、神出町にある布団専門店で「打ち直し」をしたことがありますが、もう一つ「打ち直し」という言葉の意味がわかっていませんでした。まさにこの場所で、布団の「打ち直し」の現場を目撃しましたが、そのまま「打ち直し」でした。(笑い)

WEB で調べると、古くは江戸時代から行われている作業で、綿弓（わたゆみ）とも呼ばれる弓に似たよくしなる棒で打ち、綿をほぐしていたとのことです。今は機械で行いますので、こうした風景は見ることはないと思います。

しかし、日本の江戸時代の作業が今、ここに残っていることと、当時の言葉を今なお私たちが使っていることに、言葉の伝承性の奥深さを感じています。

あれ、ここはどこでした？(笑)

二つの棒を使い分けていました。触ってみたら、竹の棒でした。　上の棒が弓なりに。